

令和6年7月10日

川崎医療福祉大学

小原謙一

第30回岡山県理学療法学会に関する趣意書

【大会テーマ】TO BE the Okayama PT –発見と交流–

【背景】

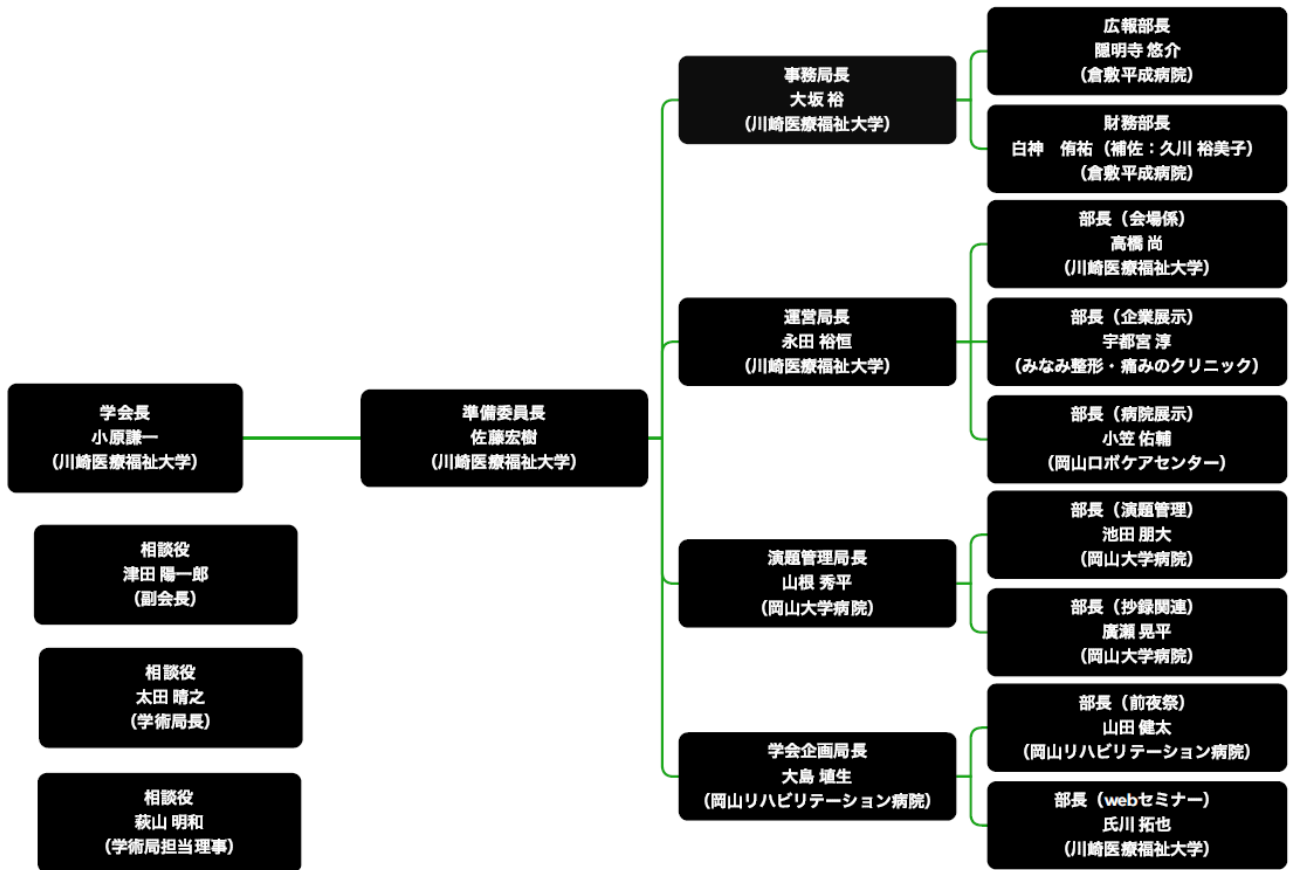
これまでの県学会は全国規模の有名な理学療法士を招き、最新のエビデンスやトピックを取り上げることにより、県内の理学療法士に対して「学びの場」を提供してきた。一方、近年では、ZOOMなどのネットワークコミュニケーションツールの普及により、在宅でも有名講師の講演や最先端の研究発表を観ることのできる時代へと変貌した。このような背景の中で県学会に求められる役割は、県内の理学療法の質の向上や施設間でのネットワークを強化するための「関係作りの場」の提供であると考えている。

岡山県では会員数の増加に対して県学会への参加者数は大きな変化はないことから、会員の県学会に対する関心の低下や学術活動を通じて自己研鑽を行うことへの意欲低下が懸念されている。このような県学会への関心や意欲低下は、県土会の入会率の低下や県内の理学療法の質の低下を助長する可能性がある。我々は県学会を通じて県内の理学療法士の関係作り場を提供することにより、専門的な理学療法の知識や技術の共有や新たに学術活動に興味や関心を持つ若手理学療法士の育成に繋がると考えた。

【第30回岡山県理学療法士学会の概要】

第30回岡山県理学療法士学会では、岡山県土会の学術活動の活性化を目標として、県内の人材の発掘や横の繋がりの強化を目的とした。そこで本会のテーマを「TO BE the Okayama PT –発見と交流–」として開催しようと計画中である。「TO BE」は、「～になる」や「将来の～」という意味がある。そして「the Okayama PT」の「the」には「唯一の」や「最も良い」といった特別感を込め、「岡山県内で唯一無二の理学療法士として飛躍する」という意味を含んでいる。

我々は、TO BE the Okayama PT は全3回のシリーズ化して開催することを検討している。サブテーマの「発見と交流」は、学術的な発見だけでなく、様々な領域で活躍する優秀な人材を発掘し、さらには交流を促すことで岡山県土会をさらに盛り上げていくことを意図している。第31回大会では、第30回大会で「発見」した人材が核となって取り組んできた活動を共有、議論し、第32回大会では、各領域の取り組みの成果発表と更なる飛躍のための課題について議論する場として発展させていく予定である。



組織図